



第45号  
発行  
青森県更生保護女性連盟  
青森市長島1丁目3-28  
プラザあすなる内  
TEL 017 (734)6211



# 更生保護 女性会員の皆様へ

青森保護観察所 所長 木村 敏章

令和二年春の人事異動により、札幌保護観察所から転任してまいりました。初めて北海道を離れての青森勤務となります。どうぞよろしくお願いたします。

青森県の更生保護女性会員の皆様におかれましては、”社会を明るくする運動“の推進など地域における諸活動のほか、矯正施設や更生保護施設入所者等に対する支援など、更生保護の様々な活動にご尽力をいただいております。心より厚く御礼申し上げます。

さて、私たちにとって長い冬がようやく終わり、桜の咲くこの時期はいつも嬉しいはずなのですが、その嬉しさが不安に変わってしまうような日々が続いています。今はまず、私たち一人ひとりが新型コロナウイルス感染症の感染防止のために不要不急の外出を控え、三つの密を避けるなどの対策を責任もって行い、一日も早くこの事態を収束させることが大切です。

今回で第70回を迎えました”社会を明るくする運動“についても感染拡大防止のため、7月の強調月間中の街頭啓発などの接触型の広報活動は、原則として中止または延期とさせていただきます。保護観

察所といたしましても、皆さんの豊かな発想力をお借りして工夫した新たな啓発活動などをいっしょに考えてまいりたいと思っておりますので、お力添えをいただきますようお願い申し上げます。



今年度の社会を明るくする運動ポスター

今後、青森県においても地方再犯防止推進計画が策定される予定と伺いました。これまで更生保護において豊富な経験のある更生保護女性会の活動が地域から、さらに期待されていくと思えます。どうか地域を編んで巻き込んで、いきいきと、女性ならではの「あたたかく・しなやかな」視点からの活動を展開していただきますようお願い申し上げます。

## 村元さんが藍綬褒章受賞

(令和元年11月2日 東奥日報より)

更生保護女性会会員、保護司などとして犯罪、非行から立ち直ろうとする人たちを支えるボランティアに参加してきた。活動する上で大切にしてきたのは「信じる」こと。受章は身に余る光栄。これからも感謝の気持ち、奉仕の心を持って地域に恩返しをしたい。

**立ち直り 支え、信じる**

村元 範子さん(77)

五所川原市

藍綬

げます。  
今なお、感染拡大の予断を許さない状況ですので、くれぐれもご自愛のほどお願い申し上げます。

だれもが心豊かに暮らせる、明るい地域社会づくりを目的として、昭和37年8月、青森県更生保護女性連盟が発足しました。

私達は「この世の中で、必要でない人間は一人もない。人間は必ず立ち直りが出来る」と、先人の方の熱き教えを胸に活動していきます。更生保護は、心ならずも非行、犯罪に陥った人が再び社会の一員として、立ち直りを助けようとする制度です。そして「さまざまの支援によって」多くの人が立ち直っています。

今日の変動する社会の中で、更女会員が、地域の関係団体と連携し、次代を担う青少年の健全育成を推進し、被害者を出さない。加害者を出さない。更生保護



# ともに歩む

青森県更生保護女性連盟

会長 神 和子

社会の土壌づくりに活動を続けられていることに感謝申し上げます。



令和元年7月「みんなのつどい」 踊り 愛をみんなで

令和元年9月21日、青森県更生保護女性連盟、主管・大鰐町更生保護女性会で、大鰐町社会福祉センターに於いて、第52回「秋の集い」を開催いたしました。

御来賓の方々には御多忙の所御出席を賜り有り難うございました。県内各地区会員が集い、地区で功績のあった会員を顕彰し、会員の意識向上にも繋げる事が出来るでしょう。

御来賓の方々より貴重な御言葉を頂戴し、会員一同更に会発展に邁進して参ります。

青森保護観察所長、本平先生に御講話をお願いして、「講話と音楽」の絶妙でスムーズな進行にあきる事なく会員皆耳を傾けて聞き入っておりました。最後に予期せぬサプライズで若い所長さんから花束を頂戴し胸がドキドキ。他の

# 第52回青森県更生保護女性連盟「秋の集い」を開催して

大鰐地区更生保護女性会 会長 水木 トミ子



二人も同じだったのではと思えます。少人数でつくりあげた「秋



令和元年10月23日から24日迄の2日間、東京都市ヶ谷の私学会館にて開催された日本更生保護女性連盟の中央研修に参加いたしました。

# 日本更生保護女性会員 中央研修に参加して

八戸地区更生保護女性会 副会長 久慈 芳子

## テーマ 地域での支え合い 「新しい地域の」つながりづくり

の集い」でしたが、地区会員の皆様には喜んで頂けたでしょうか。若い会員にはいろいろ体験してもらいながら更女会を継続してほしい。

これから又行政、地域、会員が心豊かに生きられる犯罪のない明るい社会に貢献出来る様に務めて参りたいと存じます。

研修テーマは「地域を編む」でした。

地域での支え合い（新しい地域のつながりづくり）について講義、討議がなされました。

◆何故、地域社会の人々の協力が必要なのだろう

◆どのように地域社会のつながりをつくることができるのだろうか

◆明るい地域社会づくりに向けて「更生保護女性会」に

何ができるのだろうか

◆皆様が現在、困っておられる「活動資金（お金）」はどうすればよいだろう  
標記の課題に基づき四つの視点からの講義があり討議いたしました。



中央研修風景（日本更生保護女性連盟ホームページより）

1. 住民が「主体」となって地域活動、ボランティアに取り組む意味
2. 地域の「つながり」の方法  
つながる契機と仕掛けがあつて初めてつながることができる、見守り、支え合い・居場所
3. 更生保護女性会の可能性と今後

4. 取り組みを進める課題は  
活動の財源確保  
(1) 更女の活動を阻むもの、会員確保問題等  
(2) 財源確保の実態資金造成活動等  
(3) 財源確保の方法  
第一に活動の見直し等

等々、様々な視点観点からたくさんを知ることができました。参考にしてこれから活用できることを見つけて取り組んでみたいと思います。

研修スタッフの方々の準備、対応進行からも学ぶことが多くありました。講義討議で移動することにメンバーが変わり全国のリーダーの方々とたくさんのお会いがあり、自己紹介しながら楽しいものでした。



更生保護女性会員のキャラクター「オコジョさん」です。

# 東北研修に参加して

## 令和元年度東北地方更生保護女性会員研修会

五戸地区更生保護女性会 会長 三浦 智子

### 地域から、より頼られる更生保護女性会を目指して

令和元年9月12日～13日、岩手県盛岡市「ホテルメトロポリタン盛岡」で、会員104名の参加で研修会が開催されました。

初日は、東北地方更生保護女性連盟会長の挨拶ではじまり、日本更生保護女性連盟千葉会長の御講話に続き、研修討議にはいりました。

主題は、「地域から、より頼られる更生保護女性会を目指して」で、4分科会に分かれて、討議いたしました。

私は、第3分科会に参加しました。副題として、「更生保護女性会綱領等の再確認を踏まえた、会員の意欲向上や識見を深めるための効果的な研鑽、活動



東北地方研修会 「来年は青森で待ってるはんでの〜!!」

# 新会員研修に参加して

青森地区更生保護女性会

柴谷 春子

講義 「更生保護制度について」

講演 「新会員に期待するもの」

「更生保護女性会に期待するもの」

令和元年度更生保護女性会新会員研修が青森保護観察所において10月29日に行われました。

講師に、青森保護観察所の杉野森企画調整課長をお迎えし、県内各地区から研修に参加された新会員に「更生保護制度」についての講義をしていただきました。

更生保護のしくみや目的・機能のほか具体的な内容の説明な

実践の在り方等について」でした。まとめとして、いろいろな活動で集いの場を広め、犯罪や非行少年の道を歩まないような環境づくりを実施することにより、会員の意欲向上や識見を深めるための効果的な研鑽になったのではないかと思います。

「子育て支援モデル指定地区」の活動報告があり、各地区の活発な活動発表に元気をいただきました。今回の研修会に参加して、「更生保護女性会綱領」の大切さを再確認し、これからも、地域に根ざした活動や少年犯罪防止活動を続けていきたいと思えます。



人はみな、生かされて生きてゆく。

更生保護ネットワーク

平成11年10月〈更生保護50周年〉に生まれました。「生」の文字をモチーフとしたもので木々の芽が伸びていくように今をそして未来を生きていく様を表現したものです

と感じました。

講話では、「新会員に期待するもの」「更生保護女性会に期待するもの」と題して青森県更生保護女性連盟の神和子会長と十和田地区の石田美津子会長がそれぞれの活動内容を含めたお話をしていただきました。

この度の新会員研修は更生保護のボランティア活動がたくさんの立ち直り支援に協力しながら犯罪や非行を防ぐお手伝いと立ち直りを支える地域社会の一員として更生保護女性会の支援活動に幅広く参加していきたいと感じた研修会でした。

黒石地区更生保護女性会 会長 木村 まゆみ

- ・ 地区総会
- ・ 社明運動ティッシュ配布 (夜店会場)
- ・ 社明運動ティッシュ配布 (市内各中学校)
- ・ 市中部地区ふれあい文化祭 (フリーマーケット)
- ・ りんごまつり (フリーマーケット) 2日間
- ・ 地区新年会
- ・ 市民福祉大会 (手伝い協力)
- ・ 役員会 (年3回)



## 黒石地区 令和元年度の活動

年2回のフリーマーケットでの収益は、活動費の一部に利用しています。年間行事の中で最も地域の方や、会員同士の交流が深まる場にもなっています。また地域の方の中には、毎年顔を出してくれる人も多くなり、これが更女会というボランティア団体の活動を知るきっかけとなれば嬉しく思います。

年々、会員の減少があり不安になっています。他の地区ではどのような対策をしているのか気になるので、いい案があれば参考にしたいと思っています。

## トピックス



映画「しゃぼん玉」の鑑賞後、豊山プロデューサーの講演に耳を傾ける受刑者ら11日、青森刑務所体育館

## 更生の目覚め映画から 市原悦子さん遺作鑑賞

### 青森市荒川の青森刑務所 楢引唯一郎所長は11日、同刑務所の体育館で、映画鑑賞会を開いた。改善指導の一環として鑑賞会を開くのは今回が初めて。受刑者445人と、受刑者の面接を担当する篤志面接委員協議会や青森、五所川原、板柳地区の更生保護女性会などの関係者約40人が参加した。(川越真也)

女優の市原悦子さんの遺作として知られる映画「しゃぼん玉」を上映した。直木賞作家・乃南アサさんのベストセラー小説を映画化したもので、通り魔や強盗を繰り返す主人公が老婦人を助けたことで老婦人の

家に居候し、村の人たちの仕事を手伝ううちに人の温かさに触れ、自分が犯した罪を自覚し償うために出頭して更生していく物語。

同映画のプロデューサーを務めた豊山有紀さんは、全国の刑務所や少年院で映

面鑑賞会を行っている。青森刑務所での鑑賞会では、乃南さんからのメッセージを流したほか、映画制作の過程や裏話を講演した後、受刑者と意見交換。受刑者からは「前科のある人は制

作に携わったか」「犯罪を演じることにどんな苦労があったか」など、映画に関する質問が飛び交った。鑑賞会後の取材に対し、豊山さんは「捉え方は一人一人違うが、受刑者の一人でも映画を通して感じた感情に向き合ってほしい」と願った。楢引所長は「今後も関係団体に協力してもらい、受刑者更生のきっかけになる取り組みを重ねていきたい」と語った。

令和元12月12日

東奥日報紙面より

# 令和元年度 受賞者名簿

## おめでとうございます

### 法務大臣感謝状

(三 沢) 柏崎 美江  
 (黒 石) 木村 まゆみ

### 日本更生保護 女性連盟会長表彰

(青 森) 塩原 誓子  
 (弘 前) 野呂 秋江  
 (六 戸) 鈴木 愛子

### 東北地方更生保護 委員会委員長表彰

(大 鰐) 芳賀 雅子  
 (青 森) 山口 正子  
 (弘 前) 吉本 睦子  
 (八 戸) 名久井 玲子  
 (三 戸) 新井山 美智子  
 (む つ) 関 歌子

### 東北地方更生保護 女性連盟会長表彰

(大 鰐) 阿部 サワ  
 (青 森) 福士 幾子  
 (青 森) 松浦 睦子  
 (青 森) 野澤 絹枝

### 青森保護観察所長 感謝状

(弘 前) 工藤 フチエ  
 (五所川原) 岩谷 信子  
 (五所川原) 木村 紀子  
 (八 戸) 橋場 てる子  
 (八 戸) 古里 ミヤ  
 (黒 石) 泉 ノリ  
 (三 戸) 加藤 恭子  
 (七 戸) 工藤 敦子  
 (十和田) 小林 千恵  
 (む つ) 館岡 不二子  
 (む つ) 橋本 秀子  
 (おいらせ町) 倉内 敏枝  
 (五所川原) 泉谷 初枝  
 (五所川原) 和島 由美子  
 (五所川原) 其田 正子  
 (五所川原) 福士 節子  
 (弘 前) 宮崎 春子  
 (青 森) 須田 智子  
 (青 森) 小原 千鶴子  
 (青 森) 福士 幾子  
 (大 鰐) 百澤 則子  
 (青 森) 須藤 悦子  
 (つがる市) 岡田 良子  
 (板 柳) 泉 精子  
 (五 戸) 大久保 なか

### 青森県更生保護 女性連盟会長表彰

(五所川原) 岩谷 信子  
 (五所川原) 木村 紀子  
 (八 戸) 橋場 てる子  
 (八 戸) 古里 ミヤ  
 (黒 石) 泉 ノリ  
 (三 戸) 加藤 恭子  
 (七 戸) 工藤 敦子  
 (十和田) 小林 千恵  
 (む つ) 館岡 不二子  
 (む つ) 橋本 秀子  
 (おいらせ町) 倉内 敏枝  
 (五所川原) 泉谷 初枝  
 (五所川原) 和島 由美子  
 (五所川原) 其田 正子  
 (五所川原) 福士 節子  
 (弘 前) 宮崎 春子  
 (青 森) 須田 智子  
 (青 森) 小原 千鶴子  
 (青 森) 福士 幾子  
 (大 鰐) 百澤 則子  
 (青 森) 須藤 悦子  
 (つがる市) 岡田 良子  
 (板 柳) 泉 精子  
 (五 戸) 大久保 なか  
 (東北町) 原子 スワ子  
 (三 沢) 佐々木 則子  
 (黒 石) 佐藤 稲子  
 (八 戸) 北城 和恵  
 (八 戸) 野坂 幸子  
 (野辺地) 野坂 幸子  
 (三 沢) 佐々木 則子  
 (黒 石) 佐藤 稲子  
 (三 戸) 伏見 しげ子  
 (七 戸) 立石 敏子  
 (十和田) 笠石 ミキ  
 (む つ) 佐渡 秀子  
 (む つ) 猪口 みよ  
 (おいらせ町) 北向 くみ子  
 (中泊町) 大川 久美子  
 (野辺地) 吉原 久美子  
 (三 沢) 鈴木 祐子  
 (東北町) 田中 洋子  
 (東北町) 沼山 アイ子  
 (五 戸) 岡村 みさを  
 (板 柳) 三戸 玲子  
 (つがる市) 村上 和子  
 (鶴 田) 斎藤 秀子  
 (鶴 田) 渋谷 美穂子  
 (六 戸) 滝沢 京子  
 (六 戸) 田中 眞智子



# 第69回社会を明るくする運動 作文コンテスト

## 青森県更生保護女性連盟会長賞「さくら賞」 受彰作品



### 手を差しのべられる人に

平川市立  
平賀西中学校  
3年

古川 紗椰  
(こがわ さや)

人間は、誰もがきつと心に闇を持っている。それを裏付けるかのように毎日至る所で目を背けたくなるような悲しいニュースがあふれ返っている。実際に犯罪に手を染めてしまった人は心に様々な大きな闇を背負ってしまった人が多そう。そして私自身もそこから側へ行ってしまおう一歩手前だったかもしれないのだ。

五歳から始めた習い事である空手をやめたいと思い始めたのは小学六年生の頃だった。そこでの人間関係があまりうまくいっておらず、いじめとはいわなくとも孤独感を感じる事が多くあった。他にもあった習い事に対するストレスは誰にも言えず、中学1年生になる頃には私の心は限界を迎えていた。自分を傷つけ、さらには殺伐とした思考をすることも多くなり、もしかすると私も犯罪に手を染めることで日頃の鬱憤を晴らしたり苦しい現状から逃れようとしていたかもしれないのだ。

それでも私が綺麗な手のままで今日を生きているのは、周りの人達が「見て見ぬふり」をせずに真剣に私の話を

聞いてくれたからだ。

初めに私のSOSに気づいてくれたのは、親友とも呼べる学校の友達だった。その友達に私がどんなにマイナスな言葉を口に出しても決して否定せず、少しでも現状が良くなるように沢山のアドバイスをしてくれた。そしてスクールカウンセラーの先生、保健室の先生、母と沢山の人が私を優しく受け止めてくれたのだ。そうして私の心はどんどん回復して、中学二年生の冬にはすっかり元気になることができた。思い出したくないほど荒んでいた三年間だったが、その三年間があったからこそ知れたことと、心に決めたことがある。それは辛い時に少し話を聞いてくれたり、笑顔を向けてもらえるだけでとても救われることだ。そして心に決めたことは「見てみぬふりは絶対にしない」ということだ。私は追いつめられたときに、周りの人が見てみぬふりをせずに声をかけてくれたり話を聞いてくれることがどんなに心の助けになるかを誰よりも知っている。そして同様に見てみぬふりをされたときの辛さも知っている。

見てみぬふりは沢山の犯罪の根本的なものに繋がっているのではないだろうか。いじめの見てみぬふり、虐待の見てみぬふり。もつと目をこらすと些細な見てみぬふりが大きく誰かの心を傷つけ、心の闇を大きくしてしまっているのかもしれないのだ。

過ちを犯してしまったことは許されることではない。しかし、法に触れないからといって見てみぬふりという行

為を許し、許されてしまうのはおかしいことではないだろうか。「自分じゃない」「関係ない」の声は私の周りの小さな社会にも沢山あふれている。きつと世の中にももつと沢山の声があふれているのだろうか。その中で一人でも立ち止まって真剣に考えることができれば少しずつ犯罪や非行のない明るい社会に近付いていくのではないだろうか。

私は自分を立ち直らせてくれた優しさを忘れずに、今度は私が闇に押しつぶされそうな人にそつと手をさしのべたいと思う。その人が犯罪を犯すことで鬱憤を晴らしたり、辛い現状から逃れようとしように。これが私の小さいけれど大きな社会を明るくするための運動だ。

